

この世には、確かに悪いものがある。例えば、エロ・グロ的なもの。俗悪な記事、写真、映画など。暴力的なもの。殺人がテーマになっている映画、ドラマ、漫画、ゲームソフトなど。これらのものは、果たして人間性を豊かにするだろうか。人々を幸せにするだろうか。果たして「いいもの」と言つことが出来るだろうか▼これらのものは、たぶん、誰も「いいもの」とは言わないだろう。だとすれば、なぜ、このよくなものがあるのだろうか。これらがもたらすの

2004.6.13



は、つかの間の快感。しかし、それで人は満足しはしない。自由、勝手と言つかもしれない。しかし、本当の自由は、悪を

事者の、そして周りの人たちの人生が変わった。原因は複雑で、いろいろ考えられるだろう。しかし、はっきりした原因が一つある。それは、私たちが、真剣に悪と闘わないうこと。目先のことに振り回され、肝心なことを見失っていること。人の心を豊かにすることをないがしろにして、経済的な豊かさや繁栄を求めていること。子どもたちは、このよつな危ない世界で生きているのである。大人が悪い、ということ素直に認めなければならぬ。先に挙げた「悪いもの」を作っているのは大人だ。もつ、作るのをやめよう。買うのをやめよう▼ある時、イエスの弟子たちは、集まった群衆が自分たちで「食べ物」を買うことを求めた。イエスは弟子たちが群衆に食べ物を与えるように求めたが、弟子たちにはできなかった。イエスは五つのパンと二匹の魚を祝福して弟子たちに渡しては配らせた。すべての人が食べて満腹した。買わなくても、手を差し出せば頂ける、真の「食べ物」がある。